

神が共におられた人々①：イシュマエル

原田元道

イシュマエルに関連する出来事

聖書(創世記)	出来事
12章 1-4 節	アブラハム(75歳)は「大いなる国民」となるという約束を受ける
15章 1-6 節	アブラハムは家のしもべ(エリエゼル)ではなくアブラハムの血を引く者が後継ぎとなることを告げられる
16章 1-14 節	サラの女奴隷ハガルはアブラハム(85歳)によって身ごもり、彼女の子供(イシュマエル)の子孫が増え広がること、イシュマエルが兄弟たちと敵対して暮らすことを告げられる
16章 15-16 節	アブラハム(86歳)とハガルの間にイシュマエルが生まれる
17章 15-21 節	アブラハム(99歳)は正妻サラ(89歳)との間に翌年、子供(イサク)が生まれることを告げられる
17章 20 節	アブラハム(99歳)はイシュマエルの子孫が栄えイシュマエルが「大いなる国民」となること、イシュマエルが12人の首長の父となることを告げられる
17章 23-27 節	イシュマエル(13歳)を含むアブラハム(99歳)の家の男子が割礼を受ける
18章 9-15 節	アブラハム(99歳)とサラ(89歳)は二人の間に翌年、子供が生まれることを告げられる
21章 1-7 節	アブラハム(100歳)とサラ(90歳)との間にイサクが生まれる ←預言(17章 15-21 節；18章 9-15 節)の成就
21章 8 節	イサク(2-3歳)が乳離れする
21章 9-14 節	イサク(2-3歳)をからかったイシュマエル(16-7歳)はハガルと共に家を追い出される
21章 15-19 節	荒野で食料が尽き、死ぬ間際のイシュマエルの声を神が聞かれる(「イシュマエル」＝「神は聞く」)
21章 20-21 節	神はイシュマエルと共におられ、イシュマエルは成長して弓を射る者となる
25章 12-17 節	イシュマエルの息子から12人の首長が生まれ、イシュマエルは137歳の長寿を全うする ←預言(17章 20 節)の成就
25章 18 節	イシュマエルの子孫は互いに敵対しつつ生活する ←預言(16章 10-12 節；17章 20 節)の成就

イシュマエルの生涯

・ いなくてはならない存在←神の約束

「すると、主の言葉が彼(アブラム)に臨んだ。『その者(エリエゼル)があなたの跡を継ぐのではなく、あなた自身から生まれる者が跡を継ぐ。』主はアブラムを外に連れ出して言われた。

『天を見上げて、星を数えることができるなら、数えてみなさい。』そして言われた。『あなたの子孫はこのようになる。』アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」(創世記 15:4-6)

←神の約束はアブラハムの血を引く者を通して実現する

「神はまたアブラハムに言われた。『あなたは妻のサライを、サライという名で呼ばず、サラと呼びなさい。私は彼女を祝福し、彼女によって、あなたに男の子を与える。私は彼女を祝福し、彼女は諸国民の母となる。こうして彼女からもろもろの民の王たちが生まれる。』アブラハムはひれ伏して笑い、心の中で言った。『百歳の男に子どもが生まれるだろうか。九十歳

ブログ(<https://fortheperson.jp>)もご覧ください

のサラが子どもを産めるだろうか。』アブラハムは神に言った。『どうかイシュマエルがあなたの前に生き長らえますように。』(創世記 17:15-18)

「彼らの一人が言った。『私は必ず来年の今頃、あなたのところに戻って来ます。その時、あなたの妻のサラには男の子が生まれているでしょう。』サラは、その人の後ろにある天幕の入り口で聞いていた。アブラハムとサラは多くの日を重ねて年を取り、サラには月経がなくなっていた。サラは心の中で笑って言った。『老いてしまった私に喜びなどあるだろうか。主人も年を取っているのに。』(創世記 18:10-12)

←アブラハムもサラもイシュマエルが「約束の子」だと思っていた

→周囲の期待を一身に背負う生活

・ いてもいなくてもよい存在←イサクの誕生

「すると神は言われた。『いや、あなたの妻であるサラがあなたに男の子を産む。その子をイサクと名付けなさい。私は彼と契約を立て、それをその後続く子孫のために永遠の契約とする。』(創世記 17:19)

←アブラハムに対する神の約束(創世記 12:1-3, 7)はイサクを通して実現する

「主は、言われたとおり、サラを顧みられた。そして主は、語られたとおり、サラのために行われた。彼女は身ごもり、年老いたアブラハムに子どもを産んだ。それは、神がアブラハムに語った時期であった。」(創世記 21:1-2)

→周囲の環境・態度の変化

→行き場のない感情(戸惑い、いらだち、不信感、恐れ、不安!?)

・ いてはいけない存在←イサクへの迫害

「エジプトの女ハガルはアブラハムに子を産んでいたが、サラは、その子が遊び戯れている(新改訳 2017 では「イサクをからかっている」)のを見て、アブラハムに言った。『この女奴隷とその子を追い出してください。この女奴隷の子が、私の子、イサクと並んで跡を継ぐことはなりません。』(創世記 21:9-10 ; 比較 : ガラテヤ 4:29)

→自分の居場所を喪失(荒野で死を待つのみ)

「一方、神は子どもの泣き声を聞かれ、神の使いが天からハガルに呼びかけて言った。『ハガルよ、どうしたのか。恐れることはない。神はあそこにいる子どもの泣き声を聞かれた。さあ、子どもを抱え上げ、あなたの手でしっかりと抱き締めてやりなさい。私は彼を大いなる国民とする。』神がハガルの目を開かれたので、彼女は井戸を見つけた。彼女は行って革袋に水を満たし、子どもに飲ませた。神は子どもと共におられ、その子は大きくなって、荒れ野に住み、弓を射る者となった。」(創世記 21:17-20)

⇒神にとっては皆、かけがえのない存在

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16)

あなたと共にいるために
子なる神イエスは
十字架で死んでよみがえられた